

「公印省略」

23病防第36号の2
平成23年4月12日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予察速報第2号について

このことについて、病虫害発生予察速報第2号を発表したので送付します。

今年は冬季の気温が低く経過したこともあり、麦類の生育はやや遅いとされています。これにともない、防除時期も平年より遅くなりますので、注意をお願いします。

速報第2号

麦類

1 対象作物：小麦、二条大麦

2 病虫害名：赤かび病

3 発生地域：県下全域

4 発生時期：平年より遅い

5 発生量：平年並

6 速報の根拠

- (1) 本年における麦類の出穂期は、平年または前年より5～8日遅く、4月13日～16日と予想されている（第1表）。
- (2) 福岡管区気象台の1か月予報（4月8日発表）によると、向こう1か月の降水量は少ない確率が50%で、気温は4月16日～4月22日は、平年並または低い確率ともに40%、4月23日～5月6日は平年並または高い確率ともに40%、とされている。なお、平年並の気温は、4月16日～4月22日が14.5℃、4月23日～5月6日は16.4℃である。
- (3) 赤かび病多発生年は、麦の出穂期以降の平均気温が18～20℃を超え、湿度が80%以上の日が3日以上続く場合、降雨または濃霧頻度が高い（日照時間が少ない）場合であり（「発生予察事業の調査実施基準」）、前記の1か月予報によると本年は多発生条件ではないと考えられる。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 本年における麦類の出穂期は、平年または前年より5～8日遅いと予想されており（第1表）、防除適期も平年より遅くなるので注意する。なお、出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等によりほ場ごとに異なるので、その把握に努める。

- (2) 小麦の防除適期は開花期（出穂期後7～10日頃）である。 なお、1回目の防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に2回目の防除を行う。
- (3) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後（出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃）である。この時期は収穫までの日数が短いので、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に注意する。
- (4) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果が低下するので、降雨情報に注意する。なお、薬剤散布後に降雨があり、再度散布すると散布回数は2回とカウントされるので注意する。
- (5) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

第1表 農業総合試験場における麦類の出穂期および防除適期

麦種	品種名	播種期	予想出穂期	同左 平年差	同左 前年差	調査地	防除適期
小麦	シロガネコムギ	11/19	4/13	+6	+8	大木町	4/20～ 4/23
	チクゴイズミ	11/19	4/16	+6	+8	筑紫野市	4/23～ 4/26
	ちくしW2号	11/19	4/13	—	+7	大木町	4/20～ 4/23
		11/19	4/15	—	+8	筑紫野市	4/22～ 4/25
大麦	ほうしゅん	11/24	4/15	+6	+5	筑紫野市	4/27～ 4/29
	しゅんれい	11/24	4/16	—	+5	筑紫野市	4/28～ 4/30
	はるしずく	11/25	4/14	—	+8	大木町	4/26～ 4/28

注1) 福岡県米麦大豆生育情報（平成23年3月22日付）から作成

注2) 平年：H12～H21年播の平均、ただし、「シロガネコムギ」は前5年の、「ほうしゅん」は前6年の平均値との差

注3) —：データなし

注4) 調査地：筑紫野市は農総試農産部、大木町は農総試筑後分場

8 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である（赤かび病被害粒が0.05%以上混入しているものは規格外となる）。また、小麦穀粒に含まれるかび毒（DON）の暫定基準値は1.1ppmで、この値を超える小麦は流通できない。